

# SDGs達成へ果たすべき役割表明

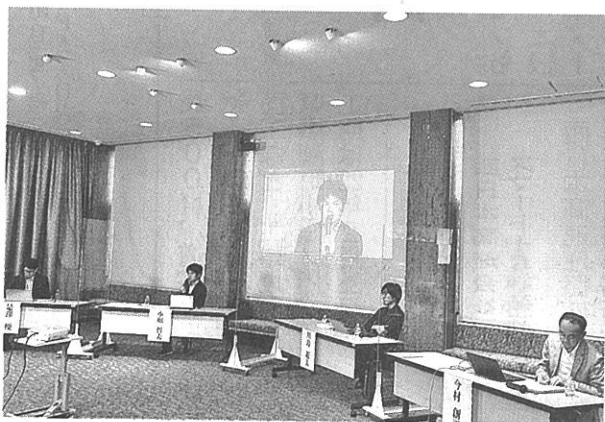


六鹿会長

日本建築家協会（JIA、六鹿正治会長）が、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて建築家が果たすべき役割を表明した。6月25日に東京都内で「JIA-SDGs建築フォーラム2021」を開催。脱炭素や循環型社会の実現で会員が取り組むべき行動を共有した。六鹿会長は「材料調達や廃棄物処分など課題もある。（フォーラムを通じ）SDGsへの意識啓発と貢献できる点を発信する」と力を込めた。

建築フォーラムには約660人がオンラインで参加。SDGsに掲げる目標に対して建築家とJIAが取り組むべき行動を表明した。建築家個人が「つくる責任」を自覚し、脱炭素社会や循環型社

## JIAフォーラム



SDGs達成へ建築家が議論した—6月25日、東京都渋谷区の建築家会館で

会の実現を目指す行動を促した。JIAは法整備へのかじ取りやSDGsに貢献する会員が「活動しやすいプラットフォームを提供する」と宣言した。

意思表明に続き、蟹江憲史慶応大学大学院政策・メディア研究科教授らが基調講演した。蟹江氏は建設資材の多くが途上国の負担によって調達されているといい、

## 脱炭素・循環型社会実現目指す行動を

「目標達成には資材の流通を可視化する透明性が求められる」と分析。「質の高い建築は世の中に残るが、持続可能でなければ淘汰（とつた）される。より良い社会づくりを建築家に期待したい」と述べた。

後半は「SDGsゴール達成に向けて建築家の役割—2030年への取り組み—」をテーマに建築家の小堀哲夫氏や川島範久氏ら3人が討論した。数々の建築作品を手掛けてきた小堀氏は「SDGsには文化の継承という項目がない。世界を見据えつつ、JIAはローカルな視点に立つて文化を育む活動を展開すべきだ」と訴えた。

設計業務で「中規模オフィスの提案が増えている」と近況を話した川島氏は、「木材や土など自然ならではの良さを引き出せるかが建築家の役割」と説いた。両氏の意見に対し、是澤優国連人間居住計画アジア太平洋地域代表は「SDGsは身近な目標であり、人々の住まいや仕事に関わってくる。皆さんの知見は目標達成に欠かせないものであり、協力を求めたい」と期待した。